

第2学期始業式式辞（令和7年8月28日）

皆さん、おはようございます。先ほど表彰をした2年連続インタハイ準優勝のボート部をはじめ、運動部、文化部各部の活躍、新チームでの合宿や遠征、海外フィールドワーク、大阪万博で発表してくれた生徒もいます。そして、3年生は自分の目標に向けた受験勉強、この夏、皆さんは、いろいろな経験を通して、高校生として、人として、確実に成長をしています。

1学期の終業式で、皆さんに「自分の感受性くらい」という詩を紹介したのですが、私も、この夏、心に残る経験をしました。それは、8月15日、戦後80年の節目に、愛媛県戦没者追悼式において、東高のコーラス部が、若者世代を代表して追悼の歌を披露することになり、私も出席させていただいたのです。

式では、遺族代表で83歳、石川サチ子さんの追悼の言葉がありました。石川さんのお父さんは、一度出征して退役されたあと、身重の妻を残したまま、再び召集され、そのあと生まれたサチ子さんを一度も見ることなく、戦地で亡くなりました。石川さんの声を聞きながら、自然と涙が流れていました。そして、東高コーラス部の歌声が、追悼の思いとともに、会場に響きわたり、私自身、平和への思いを強くしたところです。

さて、今日から2学期が始まります。既に準備が始まっている運動会など、学校行事、そして学習、部活動と、充実した2学期になるよう、一緒に頑張っていきましょう。11月には、3年後の創立150周年に向けたプレイベントを行います。今年は、ピアノと弦楽器の五重奏のコンサートで、詳しくは、後日、お伝えしますが、今日は、今から8年前の2017年11月、創立140周年を記念して、夏目漱石が本校にやってきた、そのときのニュース映像を、皆さんに見てもらいます。漱石が、当時の東高生に語りかけた言葉を、皆さんも聞いてください。映像は3分ほどです。

（2017年11月のニュース映像）

人と会話できる漱石アンドロイドは、大阪大学の石黒教授の監修のもと、漱石のデスマスクやお孫さんの声などを基にして作られ、完成の翌年、ゆかりの松山に、そして、140周年の本校に来ることになりました。当時、私は、東高の職員ではありませんでしたが、このイベントに関わっていて、記録を残していたのです。

アンドロイドが言った「100年待っています。」は、教科書に載っている漱石の「夢十夜」に出てくるせりふです。本校は、今も、8年前も、20年、30年、そして147年前から続いていて、皆さんには、150周年、200周年の東高生に、バトンをつなぐ役割がある、でもそれは、そう難しいことではなく、皆さんが東高での生活を充実させることで、つないでいけるものだと思います。

「高く、広く、そして豊かに」。東高で、高い目標、広い視野、豊かな人間性を身に付けられる、そんな充実した2学期になるよう、皆さんの成長を期待しています。